

山梨の土地改良

VOL. 172 2019.1



CONTENTS

ごあいさつ	会長・保坂 武	1
新年にあたって	全国土地改良事業団体連合会 会長 二階俊博	2
新年の挨拶	山梨県農政部長・三井孝夫	3
新年の挨拶	山梨県農政部耕地課長・山田英樹	4
新年を迎えて	全国水土里ネット会長会議顧問・進藤金日子	5
"闘う土地改良"	全国水土里ネット会長会議顧問・宮崎雅夫	6
第3回やまなし水土里を育む集い		7

第8回やまなし農村風景写真コンクール 農政部長賞 内藤 均 様「深雪の田畑」撮影場所：南アルプス市

平成30年度第2回土地改良区等役職員研修会	8
平成30年度第2回農業農村整備技術研修会	8
平成30年度山梨県土地改良事業団体連合会監事会及び理事会の開催	8
農業農村整備の集い	9
農業農村整備関係の平成30年度補正予算及び 平成31年度予算の概算決定額	9
第12回やまなし農村風景写真コンクール入賞作品	10

ごあいさつ

山梨県土地改良事業団体連合会

会長 保坂 武



皆様方には、平素より本会の業務運営並びに本県の農業農村整備事業の推進につきまして、格別のご支援とご尽力を賜りお礼申し上げます。

本年も役員、会員の皆様はもとより、関係各位のご支援を得まして会の運営を行って参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

昨年は、7月の西日本地域で発生した未曾有の豪雨をはじめ全国各地で豪雨や台風災害による被害の多い年でした。本県においても、8月以降の台風や集中豪雨による農地及び農道や水路等の農業施設の被害が、県北部を中心に350件以上発生しました。これらの豪雨により被災した地域からは、迅速な対応が求められており、被災地域の早期復旧を目指し取り組んでいるところであります。

さて、農業・農村は、安全で安心な食料を供給する場であるとともに、国土の保全、豊かな自然環境、安らぎのある農村環境の形成などの多面的機能を有しており、国民生活に大変重要な役割を果たしております。

国においては、新たな「土地改良長期計画」に基づき、農業の競争力強化や国土強靱化等の施策を推進しております。昨年11月に改定された「農林水産業・地域の活力創造プラン」には、農地中間管理機構法施行後5年見直しなどが盛りこまれ、農地バンク機能の強化等担い手の農地集積・集約のさらなる加速化に向け、攻めの農林水産業の実現に向け取り組んでいます。

そんな中、農林水産予算の概要が昨年12月に閣議決定されております。そのうち、農業農村整備事業関係予算概算額は平成31年度予算が対前年比114.1%、4,963億円、平成30年度補正予算と併せ

6,451億円となり、民主党政権時代で大幅に削減された平成21年度の5,772億円を大幅に超える水準となり改めて農業農村整備事業の重要さを感じております。

山梨県においても、「地域の魅力の原動力『やまなし農業』」を目指して、「新・やまなし農業大綱」を策定し、高品質化・販路開拓による「儲かる農業」の展開、活気に満ちあふれた農山村を創造するための諸施策を展開しています。

しかしながら、農業農村を取り巻く状況は、高齢化、担い手の減少、耕作放棄地の増大や鳥獣被害の増加、農産物価格の低迷等に対する不安及び施設の老朽化など厳しい状況が続いており、農家の意欲減退が懸念されるところです。

このような時こそ、農業農村の将来像をそれぞれの地域で描き、解決策をひとつひとつ丁寧かつ確実に実践していくことが重要であり、このことが地域の活力の向上、強いては地方創生に繋がるものだと確信します。

本会といたしましても、国、県、市町村をはじめとする関係機関及び全国土地改良事業団体連合会（会長 二階俊博）との連携を図り、会員の皆様方のニーズに応えられるよう農業農村の更なる振興と発展に邁進して参りますので、一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新年にあたって

全国土地改良事業団体連合会

会長 二階 俊博



平成31年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

昨年もまた、我が国は非常に多くの災害に見舞われました。6月には大阪北部地震が、6月下旬から7月上旬にかけては、西日本を中心に、北海道や中部地方など全国的に広い範囲で台風7号および梅雨前線等の影響による集中豪雨が、9月には北海道胆振東部地震が、また、7月から9月にかけては五度に及び台風が我が国に上陸し、多大な被害をもたらしました。被災された方々には心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧が出来ますよう、私どもとしても一体となって全力を尽くしたいと思います。

さて、私は会長に就任以来、民主党政権時代に7割近く削減された状況であった予算をまずは復活させようと、「闘う土地改良」の重要性を訴え、予算獲得に向け本気になって取り組んで参りました。全国の皆様の大きな力によって、平成31年度当初予算は、重要インフラの緊急点検等を踏まえた防災・減災、国土強靱化のための緊急対策546億円を含めて4963億円、平成30年度の第二次補正予算1488億円を合わせると、6451億円となりました。ひとえに皆様方のご尽力の賜であると、心から感謝致します。

また、土地改良の代表を再び国会へ送り込むとの強い決意のもと、私たちの代表として当選された進藤かねひこ参議院議員も全国を飛び回り、元気に頑張っており、その評価は極めて高いものがあります。今後は、進藤さんの活動と連携して、更に一層「闘う土地改良」の浸透が図られるよう念じております。更には、進藤議員と車の両輪たらんとする宮崎まさお氏も、来たるべき闘いに向けて、全国の皆様の所へ伺っているところであります。

今、全国の農業農村では、過疎化・高齢化、担い手不足に加え、地域活力の低下などの課題が山積しております。また、コメなどを巡る先行き不安から、状況が一段と厳しくなっております。一方で、全国で農業水利施設の老朽化が進行しており、食料生産の増大、非食料用米への転換に支障を来すばかりでなく、国民の生命や財産にも多大な損害をもたらすのではないかと危惧されております。

このような状況の中、昨年の通常国会では改正土地改良法が成立し、土地改良にとって、二年続けて改正された新しい土地改良法を基軸に、新たな展開を図る大きな節目の年となります。

私たち土地改良担当者としましては、これら政府の動きと軌を一にして、これまで培ってきた技術と蓄積された経験を活用し、「闘う土地改良」を活動の基本におきつつ積極的に貢献していくことが重要であると考えており、加えて、水土里ネットが農業農村を守り、発展させていくことの重要性について広く国民の皆様にアピールし、共感を得ていく努力が必要と考えます。皆様と一体となって取り組み、所期の成果が得られますよう、引き続き奮闘して参りたいと思います。

最後になりますが、輝かしい年の初めに当たり、本年も農業農村が活力を得て、一層発展しますようご期待申し上げますとともに、本年が全国の皆様にとってよき年であり、日々健やかに過ごされますようご祈念申し上げます、私の新年のご挨拶といたします。

新年の挨拶



山梨県農政部長

三井 孝夫

新年おめでとうございます。

土地改良事業団体連合会の会員の皆様には、輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

また、日頃から、県農政並びに農業農村整備事業の推進に格段の御理解と御協力をいただき、心より感謝申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、全国各地において、豪雨、噴火、台風、地震が頻発した年でありました。

本県においても、9月の台風24号により、農地や農業用施設などに甚大な被害が発生し、県内北部を中心に大きな打撃を受けました。

被害に遭われた方々には、心からお見舞い申し上げます。

県としましても一日も早い復旧に向け、国の支援をいただきながら、関係機関と一体となって全力で取り組みを進めて参ります。

一方、来年、56年ぶりに開催される東京オリンピック、パラリンピックにおいて、オリンピックの自転車ロードレースコースとして富士東部地域を通過するコースが昨年の8月に正式に決定したことは、大きな明るい話題となりました。

本県の豊かな素晴らしい自然環境や食文化などを世界に向けてPRする絶好のチャンスであると考えており、これを機会に本県の主要農産物でありますブドウやモモなどの果実や海外で人気が高まっている日本ワイン、日本酒についてもさらに積極的に販売促進を図って参ります。

本県の農業の状況としましては、「新・やまなし農業大綱」に基づく様々な施策・事業の推進により、一昨年の農業生産額は、1千億円を約17年ぶりに達

成するなど成果を上げております。

しかしながら、農業従事者の高齢化や耕作放棄地の増大など本県農業が抱える課題は依然として存在するとともに、TPPや日EU・EPAの影響も懸念されるため、本県の農業・農村が更に発展するためには、様々な対策を講ずる必要があります。

これらの対策として、農業生産には欠くことのできない農地・農業用水等の土地改良施設の整備は重要な役割を担うものであり、「新・やまなし農業大綱」においても農業農村整備事業を積極的に推進していくこととしております。

主な施策としては、本県農業の競争力を高めるため、農地中間管理機構と連携した担い手への農地集積・集約の促進や本県農業の基幹となる果樹産地等における再編整備を進めるとともに、災害に強い県土づくりに向けて、農道橋やため池等の農業用施設の長寿命化・耐震化対策、農村地域の防災・減災対策を進めるための施設整備などを推進することとしております。

本年も、「やまなし農業」を元気にし、農業を成長産業に導くため、戦略的な取り組みに積極果敢にチャレンジして参りますので、皆様の一層の御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、山梨県土地改良事業団体連合会の益々の御発展と本年が皆様にとりまして希望に満ちた幸多い年となりますよう心より御祈念申し上げまして、年頭のごあいさつといたします。

新年の挨拶

山梨県農政部耕地課長

山田 英樹



新年明けましておめでとうございます。

山梨県土地改良事業団体連合会の会員の皆様には、健やかに新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

また、常日頃より、農業農村整備事業の推進にあたりまして、多くのお力添えをいただいておりますことに心より御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、多くの生命や財産を奪った7月の西日本豪雨や北海道胆振東部地震、また、草津白根山など全国各地で火山活動が活発になるなど、自然の脅威を思い知らされた一年でした。

本県においても9月の台風24号により、甚大な被害が発生しました。

被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。あらためて事前防災・減災対策の必要性を感じたところであります。

また、TPP（環太平洋連携協定）が昨年12月30日に発行されました。さらに、本年2月には、EPA（欧州連合との連携協定）の発行も予定されており、益々、国際化が進展することとなり、大きな転換が目前に迫った年でもありました。

このTPP協定等のほかにも、人口減少社会の到来や地域活力の低下など農業・農村には多くの課題が山積しております。これらに対応し、農業・農村に活力を取り戻すため、本年の農業農村整備事業は次の二つを重点項目とし、積極的に推進していきます。

一つ目は、県の農業振興基本指針であります「新・やまなし農業大綱」にも掲げた「農業の競争力を高める基盤整備の推進」です。具体的には、意欲ある多様な担い手への農地集積・集約を農地中間管理機構等と連携をする中で着実に進めるとともに、中山

間地域において、営農の効率化・省力化や農産物の生産性・販売額の向上につながる農道や用排水路などの基盤整備に取り組みます。

二つ目は、「災害に強い農村づくりの推進」です。ため池などの農業水利施設等の土地改良施設の老朽化対策や土砂崩壊防止施設などの整備による事前防災・減災対策に取り組みます。特に、ため池については、国から新たに示された「防災重点ため池」の基準を基に、昨年8月に再度実施したため池の緊急一斉点検結果を踏まえ、本県の「防災重点ため池」の見直しを行うとともにハザードマップの認知度の向上やため池の維持管理体制の構築についてもスピード感を持って取り組み、安全・安心に暮らせる地域づくり、定住環境の向上につなげていきます。

これらの施策を着実に進めていくためには、農業農村整備事業の予算をしっかりと確保することが重要であります。

ここ数年は回復傾向にはあったものの伸び悩んでいた国の農業農村整備事業予算も、昨年末の概算決定では、平成30年度補正予算と平成31年度当初予算、さらに臨時・特別の措置を合わせると約6,451億円となり、大幅削減前の平成21年度の水準を大きく上回る回復をしました。このことは、貴会役員の皆様の力強い要請活動のおかげであり、ここに厚く御礼を申し上げます。県と致しましても、しっかりと予算が確保できるよう取り組んで参りますので、引き続き御協力をお願いする次第であります。

結びに、山梨県土地改良事業団体連合会の一層の御発展と本年が皆様にとりまして幸多い年となりますよう心より御祈念申し上げます、年頭のごあいさつとさせていただきます。

新年を迎えて

全国水土里ネット会長会議顧問

参議院議員 進藤 金日子



新年明けましておめでとうございます。昨年は、自然災害が頻発した年でした。被災された全ての方々に心からお見舞い申し上げます。平成最後の年となる今年も、「平成」の由来の如く「地平天成」（地平らかにして天なる：国の内外、天地とも平和が達成される）の年になることを強く願いたいと思います。

さて、昨年末に平成30年度第2次補正予算と平成31年度当初予算の政府原案が閣議決定されました。土地改良予算としては、総額で6,451億円（30年度補正：1,488億円、31年度当初：4,963億円）を確保することができました。これもひとえに、農業改革の推進に不可欠な土地改良の実施に向けた現場からの強い要請と関係者の皆様の熱意を、政府と与党にしっかりと受け止めていただいた結果です。予算は、人任せでは確保できない、自ら汗をかき実働して確保する、まさに「闘う土地改良」の成果であると言えます。この貴重な予算が一日も早く現場に届くよう、今次通常国会で早期成立に向けて努力してまいります。

今回の予算の特徴は、何と言っても「国土強靱化」に重点が置かれたことです。重要インフラの緊急点検等を踏まえた「防災・減災、国土強靱化のための3カ年緊急対策」として補正と当初を合わせて1,091億円計上され、制度的にも防災重点ため池整備等で大幅な拡充がなされました。また、ここ2回にわたる土地改良法の大改正を踏まえ、土地改良区の複式簿記の義務化等に対応した土地改良区体制強化事業が整備されるなど、現場の声に即した具体的な対応策も示されました。農業競争力強化関係でも現場の実態に即した要件設定やハードとソフトの連携強化

策などが盛り込まれています。今回の予算は、土地改良の原点である現場重視の視点が更に強化されたものとなっています。この貴重な予算を効率的、効果的に執行し、土地改良に対する国民の皆様の期待に応えていくことが重要です。

山梨県におかれましても、農業・農村は高齢化の加速や著しい人口減少、それに伴う担い手不足等厳しい現状にあると聞いております。そのような中、平成27年に「新・やまなし農業大綱」が策定され、「地域の魅力の原動力『やまなしの農業』」の実現に向けて

1. 高品質化・販路開拓による儲かる農業の展開
2. 活気に満ちあふれた農山村の創造

と2つの目標を掲げ、農業の成長産業化や農山村の活性化を促進することとされています。目標達成に向けて、競争力を高める農地の集積・集約化や防災・減災対策など、農業基盤の整備を農業農村整備関係予算を活用し計画的に実施することが不可欠と考えます。山梨県農業が将来にわたって持続的に発展することを切に願っています。

皆様、ご案内のとおり私の同志である宮崎雅夫（まさお）さん（全国水土里ネット会長会議顧問）も「土地改良は未来への礎」を訴えて全国各地を精力的に巡回しています。宮崎さんと私が皆様と連携して「闘う土地改良」を共闘できるようにご指導とご支援を心からお願い申し上げます。

本年も引き続き皆様と一緒にあって諸課題の解決に向けて専心努力してまいります覚悟です。本年が皆様にとってご家族共々素晴らしい一年となりますよう心からお祈り申し上げます、新年の挨拶といたします。

"闘う土地改良" 未来への礎を築くために

全国水土里ネット会長会議

顧問 宮崎 雅夫



新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、良き年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

私にとっては、いよいよ決戦の年となりました。

全国の関係者の皆様の土地改良に対する熱い思いに触発され、全国水土里ネットの二階俊博会長が提唱された「闘う土地改良」の旗のもと、不退転の覚悟で政治活動に取り組むことを決意し、一昨年末、30年間勤めた農林水産省を地域整備課長を最後に退職しました。昨年1月には全国水土里ネット会長会議顧問を仰せつかり、この一年間、全国各地で地域の实情や意見をつぶさに拝聴させていただきました。これまでの移動距離は地球5周分の20万kmになりました。

昨年は、西日本豪雨や北海道胆振東部地震をはじめとする地震、台風、さらには噴火など、全国各地で自然災害が相次ぎました。被災された方々にお見舞いを申し上げるとともに、被災地の一日も早い復旧・復興を願ってやみません。また、被災地の状況をお聞きするたびに、防災・減災対策は一刻の猶予も許されないとの思いを強くしています。

私の実家は兵庫県の農家です。田んぼや山に囲まれて育ちましたが、この一年全国を訪問する中で、450万haの農地と40万kmに及ぶ農業用水路・排水路、そしてこれを支える土地改良組織が一体となって、食料の安定供給と多面的機能の発揮を通じ、国民の食とくらしを支えていることを改めて実感しました。

土地改良は、先人が創り上げてきた農地やかんがい排水施設などをそれぞれの時代に応じて整備を行い、次の世代に引き継いでいくシステムです。つまり、土地改良は、現在の農業の発展はもとより、日本の「未来への礎」を築くものであると考えています。

私は、現場でお聞きした様々な課題を解決し、日本のすばらしい農山漁村を「未来への礎」として、子どもや孫たちに引き継いでいくため、「大切な農地と水を守る」「農山漁村を災害から守る」「美しい農山漁村を守る」という3つの目標のもと、これを実現するため、土地改良の安定的な予算確保や災害に強い農山漁村づくりなど、7つのチャレンジに全力で取り組んで

いく考えです。

とりわけ土地改良予算については、「闘う土地改良」の旗のもと、関係者の努力により回復基調にはありますが、地域の切実な要望に応えるためには、当初予算の回復・拡大が必要です。国政の場において、進藤金日子議員が「闘う土地改良」の先陣を担っておられますが、私もその一翼となれるよう、全身全霊をもって活動に打ち込んでいく考えです。そして、現場と国政の間を、私の好きなテニスのボールのように素早く往復し、現場の声を施策に反映していきたいと考えています。

今年は天皇陛下が御退位され、元号が変わる大きな節目の年です。新しい時代の始まりの年でもあり、土地改良にとっても大きく羽ばたく年にしなければなりません。皆様の土地改良に対する熱い思いと大きな力を、私、宮崎雅夫に賜りますようお願いいたします。

むすびに、本年が皆様にとって実り多き年となりますように祈念いたしまして、私の新年のご挨拶といたします。

宮崎雅夫3つの目標

- 大切な農地と水を守る！
- 農山漁村を災害から守る！
- 美しい農山漁村を守る！

7つのチャレンジ

1. 土地改良の安定的な予算確保にチャレンジ
2. 災害に強い農山漁村づくりにチャレンジ
3. 農地や水を守り育てる体制の強化にチャレンジ
4. 自然豊かな美しい農山漁村の継承にチャレンジ
5. 世界に日本の農林水産業と農山漁村のすばらしさの発信にチャレンジ
6. 女性の視点を大切に農山漁村政策の展開にチャレンジ
7. 農林水産業と農山漁村への国民の理解づくりにチャレンジ

第3回やまなし水土里を育む集い

(多面的活動組織の表彰と活動報告)

山梨県多面的機能推進協議会は12月20日、第3回やまなし水土里を育む集いを開催しました。この集いは、多面的機能支払交付金事業に取り組む活動組織が、意欲的且つ円滑に活動を実施する為のきっかけづくりを趣旨としています。表彰は、農村環境保全などの多面的機能保全活動を積極的に行った4組織が表彰されました。



基調講演 長野県上田市 (坂田様、下村様)

◇山梨県知事賞

しちかく
七覚むらづくり協議会

甲府市
代表者：福嶋 一美 様
田1.5ha、畑13.3ha

主な活動

- 景観形成、耕作放棄地防止を図るためのそばや梅、栗等の栽培
- 地域コミュニティの形成を図るため、栽培した蕎麦を使った「七覚そばまつり」の開催
- 他事業と連携し、里山の四季の散策や自然観察をするための遊歩道の整備
- 経験豊富な高齢者による土木工事や農作物の肥培管理技術の若年世代への伝承



都市農村交流のそばまつり開催 (七覚)

◇山梨県農政部長賞

わで
上手地域環境保全会

富士川町
代表者：井上 和夫 様
田3.8ha、畑11.4ha

主な活動

- 草刈り泥上げ施設の補修等きめ細やかな保全管理、鳥獣害対策の実施
- コキアやゆずの植栽による遊休農地の解消、景観形成
- ゆずオーナー制度、ゆずもぎツアーの実施による都市との交流推進
- 組織の活動状況の町広報誌やネットニュースへの掲載
- 地元小学校と連携した水田の生き物調査の実施



遊休農地の解消 (上手)

◇山梨県多面的機能推進協議会長賞

おおしま
大島地域資源保全会

大月市
代表者：志村 善光 様
田5.7ha、畑1.8ha

主な活動

- 地域全体として草刈り泥上げ施設の補修、保全管理、鳥獣害対策の実施
- 蕎麦の花、コスモス、百日草の植栽による遊休農地の解消、景観形成
- 自治会と協力し、どんど焼き、梵天さん、道祖神など伝統の子供達への継承
- 福祉団体と連携を強化し農業体験等による地域間交流の推進



地域伝統行事の継承 (大島)

◇奨励賞

かつぬま
勝沼環境保全会

甲州市
代表者：橘田 尊男 様
畑90ha

主な活動

- 地域全体として草刈り泥上げ施設の補修、保全管理、鳥獣害対策の実施
- ペチュニア、パンジーなど花の苗を植栽することによる景観形成
- 古くから伝わる甲州ぶどう勝沼の農業技術の維持、都市との交流の推進



地回り枝等の伐採 (勝沼)

基調講演では、多面的活動を先進的に実施している長野県上田市より一般社団法人 農業振興整備ネットワークうえだ 副理事長 坂田忠則様と上田市農林部土地改良課主査 下村亮様 より、『ふるさと信州の農地・水・環境を未来へ～長野県の状況・広域化による組織強化・効率的な活動～』と題して講演されました。その後、表彰団体を代表して3組織の方々が活動報告を行いました。県内各地より総勢約420名の参加をいただき、集いは成功裏に終了することができました。

平成 30 年度第 2 回土地改良区等役職員研修会

11月27日山梨県自治会館2階研修室において、平成30年度第2回土地改良区等役職員研修会を開催しました。研修会は土地改良区等の役職員など総勢77名の参加を得て開催されました。

主催者挨拶として、当会渡邊専務理事が日頃よりのご支援と研修会参加への御礼を述べ、続いて、山梨県農政部耕地課山田課長より来賓の挨拶を頂きました。研修では、農林水産省土地改良企画課小笠原善友企画官より「改正土地改良法について」と題し

改正土地改良法の運用、資産評価マニュアル案について施行時期、具体的な運用方法等の詳細な説明が行われました。



平成 30 年度 第 2 回農業農村整備技術研修会

11月30日山梨県自治会館講堂において、平成30年度第2回農業農村整備技術研修会を開催しました。この研修会は山梨県建設業協会、山梨県土地改良技術協議会、山梨県土地改良事業団体連合会の三団体協賛で開催され農業農村整備事業に携わる関係者が技術力向上等を目的に開催され、今回の研修には県、市町村、土地改良区、建設業協会、土地改良技術協議会、土地連職員等約220名が参加しました。

協賛団体の会長挨拶の後、来賓として農政部山田耕地課長の挨拶をいただきました。講演では、山梨県農政部耕地課浅川技術指導監から「農業農村整備事業の品質確保に向けて」と題し、安全・安心で品質の高い県産農産物の生産、活気に満ちあふれた農村環境の実現に向けて事業に関わる全ての担当者の理解と連携により農業・農村の基盤づくりを実施することの重要性について講演をいただきました。

続いて公益社団法人物理探査学会相澤常務理事か

ら「古くて新しい弾性波探査適用の留意点と題し、地質調査として弾性波探査を実施する場合の基本事項や解析・品質管理に関する留意点等について講演をいただきました。

最後に宮城大学食産業学群教授郷古様より「震災復興に残された課題と農村技術者の現場知」と題し、東日本大震災の復興について実際に現場に携わった経験を踏まえ復興状況や現在の課題等について講義をいただきました。



土地連渡邊専務理事挨拶

平成 30 年度 山梨県土地改良事業団体連合会監事会及び理事会の開催

監事会・監査会は10月22日(月)土地連役員室で、理事会は10月26日(金)セレス甲府で開催されました。

監事会では、①平成30年度監事会及び監査計画について、②平成30年度補正予算について、③理事間の契約について(利益相反)、以上の3議案が承認されました。

続く監査会では、①平成29年度事業報告・収入支出決算について、②平成30年度事業の執行状況並びに会計経理について承認されました。理事会では保坂武会長が議長として議事を進行。①平成29年度事業報告・収入支出決算並びに財産目録につい

て、②平成30年度補正予算(案)について、③平成30年度事業並びに収入支出中間報告についての3議案が監査報告の後、承認されました。



保坂会長挨拶

農業農村整備の集い

11月14日、砂防会館において、全国土地改良事業団体連合会及び都道府県土地改良事業団体連合会の主催で、「農業農村の集いー農を守り、地方を創る予算の確保にむけてー」が開催されました。この集いは、農業農村整備に携わる全国の関係者が一堂に会し、それぞれの現場で直面している喫緊の課題を再確認し、これらの諸課題に緊急に対応するべく、農業農村整備事業の一層の充実と推進を期するものであり、山梨からは土地改良区理事長等19名が、与野党国会議員も含め全国から1,300名を超える関係者が参集しました。二階俊博全土連会長は、主催者の挨拶の中で、先の第41回全国土地改良大会宮城大会参加の御礼を述べると共に、土地改良予算の確保に向け、「闘う土地改良」の旗の下、関係者の団結の必要性を訴えました。

続いて、吉川貴盛農林水産大臣は来賓祝辞の中で、土地改良は、農業の競争力強化や国土強靱化といった現下の政策課題に取り組む上で重要な役割を果たすものであり、農林水産省では予算獲得に向け「現場の声を聞き、全力で取り組むとの決意が述べられ、都道府県土地改良事業団体連合会会長会議藤金日子参議院議員からは、皆様方の予算確保に向けた要請書を一つ一つ見て予算確保の重要性を改めて認識し、平成31年度の予算確保に向けて頑張っていきたいとの決意、都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問宮崎雅

夫様からは、現在の活動状況の報告と来年の夏に向けた力強い決意表明が行われました。また、塩谷立自民党農林・食料戦略調査会長、公明党井上義久副代表にも出席いただきました。閉会后、要請実現に向け、各都道府県やブロックの代表者が政府、国会議員へ強力な要請活動を行いました。



全国土地改良連合会
二階会長



吉川農林水産大臣

農業農村整備関係の平成30年度補正予算及び平成31年度予算の概算決定額

12月21日閣議において、農業の競争力強化をめざした経済対策の実行に向け、平成31年度予算が概算決定され、農林水産省の予算総額は対前年比100.4%、2兆3,108億円となり、このうち農業農村整備関係予算は対前年比114.1%、4,963億円となりました。

平成31年度農業農村整備事業予算概算額は、平成

30年度補正予算及び臨時・特別措置と併せ6,451億円となり、民主党政権で大幅に削減された以前の平成21年度の5,772億円を大幅に超える水準となりました。

国の農業農村整備事業に係る団体、関係者が財務省、農林水産省、政府与党、国会議員に要請活動を行った成果と思います。

農業農村整備関係予算概算決定の概要

(単位：億円)

	31年度 概算決定額 (A)	30年度 補正額 (B)	合計 (A+B)	参 考		
				30年度予算額 (A')	29年度補正額 (B')	合計 (A'+B')
農業農村整備事業 (公共)	3,260	1,413	4,581	3,211	1,370	4,581
農地耕作条件改善事業 (非公共)	300	—	380	298	82	380
農業水路等長寿命化・防災減災事業 (非公共)	208	—	200	200	—	—
農山漁村地域整備交付金等 (農業農村整備分)	650	75(-)	639	639	—	639
計	4,418(101.6%)	1,488	5,906	4,348	1,452	5,800

(注)・計数は四捨五入のため、端数において合計と一致しないものがある ・下段 () 書きは、平成30年度予算額との比率

主要予算総括表

(単位：億円)

事 項	30年度当初予算額	30年度補正予算額	31年度予算概算決定額	対前年度比 (%)
公共事業	4,242	2,055	4,306	101.5
農業農村整備事業	3,211	1,413	3,260	101.5
農山漁村地域整備交付金	917	50	927	101.1
海岸事業	33	5	36	109.1
災害復旧事業等	82	587	83	101.2
非公共事業	1,552	85	1,569	101.1
農村振興局予算総額 計	5,794	2,140	5,875	101.4

(注)・計数は四捨五入のため、端数において合計と一致しないものがある ・農山漁村地域整備交付金は、林野庁及び水産庁分を含む農林水産省の全体の額

第12回 やまなし農村風景 写真コンクール 入賞作品

「農が育むやまなしの農村風景」をテーマに、やまなし農村風景写真を募集したところ、風情ある農村の四季の他、賑やかで活気のある農村の暮らしや伝統の祭り、歓喜あふれる収穫の表情や農作業中の微笑ましい家族団らんの情景などの作品総計656点の応募があり、厳正な審査の結果、知事賞をはじめ入選作22点が決定しました。入賞作品は、山梨県農政部耕地課のHPに掲載しています。



■山梨県知事賞 「真冬の野焼き」
三井 健 様（甲府市）／撮影場所：甲斐市



■審査委員長賞 「田植えと泥遊び」
堀ノ内美彦 様（中央市）／撮影場所：中央市



■農政部長賞 「朝もやに咲く」
清水 進 様（神奈川県）／撮影場所：笛吹市

第12回やまなし農村風景写真コンクール受賞者

賞	受賞者	住所	作品名
季節賞（春）	中村 知子	中央市	桃と富士
季節賞（夏）	大柴 力	韮崎市	虫送り
季節賞（秋）	小山 耕治	南アルプス市	初夏のひとコマ
季節賞（冬）	清水 弘海	甲府市	美味しそう！
入選	雨宮ますみ	甲州市	甲州の秋
入選	井沢 雄治	埼玉県	棚田に咲く
入選	菊地 和夫	上野原市	おいしい桃が出来ます様に
入選	岸本 勝	中央市	水田と逆さ富士
入選	木谷 昌経	市川三郷町	桃色に染まる頃
入選	小林 秀次	笛吹市	ひとりでたんぼ

賞	受賞者	住所	作品名
入選	小松喜久治	南アルプス市	孫が田んぼで初デート
入選	眞田 幸彦	甲府市	桃の花と富士
入選	清水 浩樹	南アルプス市	春を待つ
入選	志村 茂雄	笛吹市	富士に見守られて
入選	中村 清治	南アルプス市	静寂な棚田
入選	萩原 元	甲州市	夕涼み
入選	日向 正一	北杜市	雨、降らないかなあ！
入選	藤本 治男	甲府市	見張り番
入選	横森 賢治	韮崎市	今年も豊作

※敬称は略させていただきます。※入選は、あいうえお順位となります。

新年の御挨拶

謹んで新年のご祝詞を申し上げます
本年もよろしくお願ひ申し上げます

平成31年元旦

山梨県土地改良事業団体連合会

(水土里ネットやまなし)

会 長	甲斐市長	保坂 武			
副 会 長	甲州市長	田辺 篤			
副 会 長	韮崎市長	内藤 久夫			
専務理事	学識経験者	渡邊 祥司			
理 事	中央市長	田中 久雄	理 事	都留市長	堀内 富久
理 事	北杜市長	渡辺 英子	理 事	笛吹市長	山下 政樹
理 事	笛吹川沿岸土地改良区理事長 (山梨市長)	高木 晴雄	理 事	南部町長	佐野 和広
理 事	小菅村長	船木 直美	理 事	富士川町長	志村 学
総括監事 職務代理者	上野原土地改良区理事長	奈良 明彦			
監 事	楯無堰土地改良区理事長	今村 正城			
	他職員一同				

技術力向上への取り組み

本会では、職員の資格取得への意欲向上を図ると共に、職場内での勉強会の開催を通して、技術力向上に努めております。今年度は農業土木技術管理士に1名、会計指導員に1名、測量士補に1名が合格しました。今後も成果品の品質確保を図り、会員の皆様の信頼を得られるよう各種資格取得に努めて参ります。

農業土木技術管理士	事業課主査	河野 英司
会計指導員	総務部副主査	橘田 昌裕
測量士補	事業課第一担当	前田 祐希

行事予定表

2/18	土地連 監事会・監査会	土地連役員室
2/22	土地連 理事会	セレス甲府
3/26	全国土地改良事業団体連合第61回総会	都市センターホテル
3/27	山梨県土地改良事業団体連合会第61回総会	セレス甲府

農業農村 整備事業は

- 調査設計・測量
- 換地確定測量
- 農業集落排水事業
(ストックマネジメント)
- 水土里情報システム

山梨県土地改良事業団体連合会へ

建設コンサル登録：農業土木部門



山梨の土地改良 VOL.172

発行：平成31年1月

発行者：山梨県土地改良事業団体連合会
〒400-8587 山梨県甲府市蓬沢1丁目15番35号 自治会館5階
TEL 055-235-3653 FAX 055-228-8174
URL：http://www.yamanashi-doren.or.jp
E-mail：syomu@yamanashi-doren.or.jp